



釣り場割引クーポン券
 野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼
 隼人大池 上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場
 将監 柳生F.P 筑波白水湖 泉塚 逆井HC
 友部湯崎湖 水藻FC 甲南へらの池
 三和新池 狭山HC 新座LC 川越FC
 府中HC 当麻池 多賀釣池 芦田湖水光園
 鳥羽井沼 朝日池 大上へら池 田島池
 霧の沼 清川つくしFC 小川つり堀園
 三ヶ湖・舟宿 光月 千代田湖・舟宿 千和
 西湖・釣舟 白根 西湖・釣り宿 丸美
 西湖・釣り宿 青木ヶ原 165ページ〜

**8 特集Ⅰ 石井旭舟「へらぶな浪漫街道」スペシャル
 壮絶なる田瀬湖再挑戦。**
21 特集Ⅱ 最先端の「ハリ」選び。

●今月の表紙●
 angler: 杉山達也
 field: 筑波湖
 photo: 本誌・里
 layout: 本誌・里

COLOR (カラー)

- 34 小池忠教 激釣大全
《第五回》精進湖
- 42 杉山達也のSPLASH BEATⅢ
《Vol.14》日曜日、超満員の筑波湖。メーターウインドセッティング爆走!!
- 49 棚網 久 あなたの夢を叶えます。
「ミスターG、乗込みべらを釣らせて下さい! その2」
ドリーマー・高橋わたるさん 釣り場:津久井湖
- 56 第9回 椎の木湖畔
★AREA REPORT
58,66 山中湖(山梨県) 本誌・伊藤洋一
60,68 雁里沼(北海道) 北林正行
61,69 赤祖父湖(富山県) 山本一朗
62,70 松野湖(岐阜県) 後藤 誠
63,71 甲南へらの池(滋賀県) 前田誠志
64,72 中山陥落2号池(福岡県) 河口正伸
- 134 竹とともに生きる。
《第23回》伊集院 恩地一雄
- 137 戸張 誠 野釣り道場
《第十四回》【相模湖&芦ノ湖】
- 142 チョーテン王・田中雅司の深奥奥義伝承 魚心掌握
Vol.10【今季の切り札! 話題の新製品「天々」】
釣り場 羽生吉沼
- 147 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!」
《Vol.29》本邦初公開!! 古川 実のトーナメントテク!
【タイトハリス・浅ダナ両ダンゴ】
- 152 吉川ひとみの「へらってヤバイわっ!!」
《Vol.36》「爽やかフィッシング」のはずが…。
田貴湖で、奇跡が起こる!?
- 156 稲毛師匠と編集部諸が行く、ODEKO危険度120%
《第7回》矢板IC付近の野池(栃木県矢板市~塩谷郡)
- 160 私の宝物
《Tresure.5》ゲスト:森田忠雄さん
- 193 本音で迫るへら用品インプレッション。へらアイテムメッタ斬り!
【ハリスCASE】 ひろ工房
- 194 岡田 清 Deep Side Angle
《Vol.21》【光速両ダンゴ】 隼人大池(埼玉県)
- 201 北川穂積の全国野釣り行脚
《第6回》野村ダム(愛媛県)
- 204 釣りの帰りに寄りたのお店
《file.11》田貴湖ハーバル・ガーデン
カフェ&レストラン【カモミール】のランチ
- 206 釣果予想クイズ
- 208 フィッシングレディ
《今月のレディ》上野里子さん 霧の沼(茨城県)

MONOCHROME (モノクロ)

- 76 へら鮒釣り 超基本講座
《第7回》管理釣り場の浅ダナメーター両ダンゴ
- 80 日研・東海地区大会 鯨ヶ池
- 83 あらいしのぶの なぜなぜ しのちゃん
《第7回》「しのちゃん、NHCに体験参加する」 清遊湖
- 88 NHCスピリット
《Vol.22》JBへらぶなトーナメント第2戦(富里乃堰)&
NHCへらぶなトーナメント関東大会第2戦(清遊湖)
- 92 トーナメント小林恭之が挑む! 竿頭までぶっ飛ばせ!!
《Vol.19》「さつき池」5月 月例大会
- 99 江成公隆のトーナメント、復活への道。
《Vol.37》「脳内セット」PART I
- 106 そんなモジリにダマされて… 天野正由
《その19》ゴールデンウイークの迷走(秩父湖~鎌北湖ほか)
- 110 水辺のプラネタリウム 吉本垂土
《今月の星空》「府中ダム」
- 115 どやさー 今月の釣り場 西田美明
《その7》宮川園にて、へこむ
- 118 最狂へら戦士養成所「鮒の穴」 漢タカハシ
《第二十九話》【印鑑限定45cmオーバーを釣り上げる!! 漢タカハシ乗込み奮闘記PART2】
- 122 新連載 母なる湖… 琵琶湖べらを釣れ! 南 元彦
《第3回》【緊急警告!!】 薩摩の釣り場
- 126 野田幸手園新聞
- 162 ワクワク管理釣り場情報
- 171 小売店情報
★へら鮒BOX
177 里ちゃんの新興編集長雑記
178 情報発信基地
180 ボイス
186 コラム『へら狂おやじと呼ばないで』 白石和弘
187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト
189 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』 中峯伸行
190 プレゼント発表
191 広告索引
192 編集後記

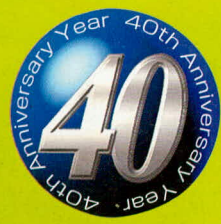
STAFF

●Producer
根本百合子

●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●Planner
〈オフィス・えふ〉
藤原 肇



この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！～のびが更新中～ (URL) <http://hesar.yokohamaturumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.37〉

「脳内セット」 PART I

「江成節」、久々の炸裂である。

お約束の長い前置に惑わされることなく、一気に読み進めて頂きたい。
内容的には、先月の西澤氏が書いた江成ワールドを自ら実証した恰好だ。
しかしながら、読者の評価は大きく分かれるかもしれない。
テーマはセットであったが、取材当日にセットは全く試していないのだ。
しかも、原稿のほとんどが両ダンゴの話で、かつ…
長すぎて今月号だけでは入りきらず、本題は次号PART IIへ！
ではなぜ、セットがタイトルになったのか…

…命名。「脳内セット」 by 里ちん

連休明け。

今月の取材はゴールデンウィークの真っ只中の5月4日に予定されていた。テーマは暖季のウドンセット。メジャートーナメント予選シーズン開幕にもかかわらず、職場の異動の絡みで今季は申し込みすら出来なかった僕ではあるが、はるか遠くにトーナメント参戦を見出すのならテーマはやはりそれしかない。が、僕の体調不良から取材は延期となった。先月に引き続き同行を約束してくれていたカッピ君こと西澤良純氏には、この場を借りてお詫びしておきたい。それから…

「先月はホメ過ぎー！」

ちょうど一週間後の、何のイベントもないド平日。締め切りを考慮すると、僕にとつてはこの日しか取材日に充てられる休みはない。普通のサラリーマンのカッピ君には有給という手もあるが、連休明けでは言い出しにくいだろう。里ちんも別件の取材で同行は無理ということで、単独釣行が確定。僕は行くのがかたくなっていた。

「平日でテーマもボケちゃったし、取材ナシでも同じじゃないの？」

「ダメです！ ちゃんと釣りに行って、それをテーマにして下さいよ。そのかわり伊藤さんに行ってもらいますんで、カメラの心配はしなくていいですから。でも午前中しかお付き合いませんから、くれぐれも寝坊などしないようにお願いしますね」

「…伊藤さん？」

「以前取材した僕が、今度はされる側に…。こんなことってあるんだなあ。」

「別件の取材とは「ひとびと」の取材。里ちんからは、「一緒にどうですか？」という提案は「当然」なかった。何もツーショットで写真に収まることは思ってもいないのに…」

記者・伊藤洋一。

5月11日早朝。椎の木湖の駐車場で伊藤洋一氏と再会。昨年のへら鮎社社葬の際にはまともに挨拶も出来ない状況だったので、こうして対面するのは「伊藤洋一の常識」以来ほぼ2年ぶりということになる。

先着者が釣り座に着き、すでにエサ打ちを始めた頃、僕たちも座った。
「俺、何すればいい？」

「いや、そんな…。実はテーマも決まっていなくて、ちゃんと釣りに行ったという証拠写真だけ撮っていただければいいですよ！ だいたい僕の釣りなんて伊藤さんが見ててもしょうがないじゃないですか」

「そんなこともないと思うけど…。じゃ、釣りしちゃうっていいのかな？」

「勿論ですよ！ バシバシ決めちゃって下さい！」

最近ではめっきり釣りが減ったという伊藤氏。取材では絶対に竿を出さないのだという。「江成君さ、今日取材ってことは原稿書けそうなの？」

「いやあIPPパイパイですよ、実際。今日はテーマは未定ですが、たぶん伊藤さんの釣りを見ていれば書きたいことはたくさん出てくると思うんで問題ないんです。問題なのは、それを原稿にする時間をどうやって捻り出すかってトコなんです」

「ビッグのみんなも心配してるよ。江成君の記事終わっちゃうの？」

「マジっすか？」

「うん、みんな釣りが出来なくなってきたからね、年代的に。よく三十代が少ないっていう話になるけど、少ないんじゃないんだよ。やりたくても出来ないんだよね。…きつとみんな江成君に自分を重ねちゃってるんじゃない」

いかなあ」

「そんな、ただのグチですよ？ 毎月毎月記事にする価値はないと思うんです。だからいつやめようかってタイミングを見計らってるわけですよ」

「連載？ それとも釣りそのものもやめた？」

「やめられるものならどっちも(笑)。記事にも書きましたが、1回行っちゃうと毒なんですよ。ホントに辛いんです」

「All or Nothingってヤツだね。自分も釣りが思うように出来なくなつて初めてその気持ち分かるようになったなあ。仕事とはいえ釣り場にいられるだけ江成君よりは幸せなかもしれないけど…。現在の状況は想像もしてなかったよ(笑)」

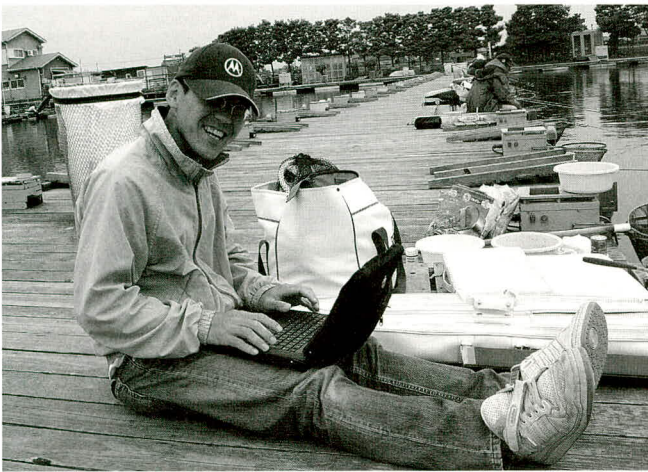
「最近は何と出でないんですか？」

「ほんと出でないなあ。もちろん仕事のせいだけじゃないけど。でも、本を作るってことがこんなに大変だとは思わなかったよ。そろそろ1年経つけどMacにはいまだに慣れないし。江成君は釣り場にも持つてくるなんて凄いな」

「スゴくないですけど、最近は釣り場に持参してますね。僕は十代の頃からメモ魔なんです。後から自分で書いた字が読めないんですよ。それでついに諦めたってワケです」

スーパースター伊藤洋一氏が、へら鮒社に入つて1年。奥様のお父上である先代社長が亡くなつた後、急遽編集部長としてへら鮒社を支えることになった伊藤氏。もちろんへら鮒釣りは知つていても、全く未知の環境、仕事。大変だろうことは容易に想像出来る。子育てをめぐり、同居でもないのに実の親とも衝突してしまつていく僕にはマネ出来ない。

先月号でカットビ君が書いていたように、本の中のスーパースター達には確かにリアルさが少なかった。経験したこともないような高釣果。毎日釣りに行ける身分。そういう部



ノート型のMacを膝に乗せ、御満悦な江成。写真では見えないが、ブルソンの胸にはアップルのレインボーロゴが刺繍されている。キャップには、アップルが採用しているCPU製造メーカーのモトローラ社のロゴ。…ただのオタク野郎だ

分しか切り取られていない記事が多かった気がする。もっと悪く言えば「ウソ臭い」感じである。しかし、それは僕達の夢でもあった。夢にリアル感不要である。趣味を職業にしてしまった者の苦悩や、その人の経済状態が語られない理由はここにあるのだ。例えば伊藤洋一氏に対し、「釣りばかりやってやがって！」と、感じていた人は多かつたかもしれない。しかし、釣りに行かない伊藤氏を想像出来るだろうか？ 夜な夜なパソコンに向かう伊藤氏を想像出来るだろうか？

今、「伊藤洋一」という偶像が「平場」に降りてきた。「取材される側が緊張しまくり」というホンモノの記事に期待しよう。



相変わらず準備の遅い江成。仕掛けは現場作り、しかも、ご想像の通りかなりきっちり作るので、エサを打ち始めるまでけっこう時間がかかる…

伊藤記者からの質問。

平日でも満員になるほど人気の椎の木湖だが、連休明けの人はまばらであった。もともとのテーマはウドンセットだったが、取材日が平日に決まった時点でウドンを作っていく気はさらさらなかったし、この状況下でインスタントウドンを用いたセットから入る気も全く起きなかつた。平日メインの伊藤氏も「当然」両タンゴ。2人とも竿は8尺、ウキからオモリまで規定ギリギリの1メートル。

野釣り例会がメインの伊藤氏は、準備も片付けも速い。野釣りは管理でのトーナメントのように、タイムアップ寸前までエサ打ちをしていられないからだ。帰着時間ギリギリまで釣りをしていたければ、片付けとポート漕ぎの時間を詰めるしかない。お約束通り仕掛け作りから始まった僕の隣で、あつという間にエサ打ちが開始された。

ボンボンと3〜4投もすると、伊藤氏のウキのまわりにはへらの姿が見えるまでになっていた。爆釣の予感…。だが伊藤氏は、あつさりとお釣りの状況を見切っていた。

「買上にしかないよ。時間が経てば落ち着くかもしれないけど、この曇り空じゃ厳しいかな。あまりエグイことをしないでキチンと釣ろうと思つたら、いいとこ60〜70kgくらいじゃないかなあ」

60kgでもひと昔前なら大釣果だが、大型中心の椎の木湖では驚く数字ではない。型を揃えられれば100枚くらいなのだ。

「100枚だとしても時間あたり10枚前後の釣りでしょ。1時間に何回エサ打ちするのかわかるとしたら、かなりカッターい釣りだね」

飯に時間あたり50投とすると、うち40投は釣れない投ということになるが、これは40回空振りでも気にしなくていいという事ではな

い。残りの10投のための組み立てを担う重要な投なのだ。だいいち40回もカラツンをもらい続けていたら、へらの量がどんどん変わってしまい收拾がつかなくなってしまう。だが、現在の釣りでは「釣れない投は必ずカラツン」というわけでもない。せつかくカラツンが出ているエサならば、あえていじらずカラをもらい続け、確率の問題で拾っていくのが正解ということもあるかもしれない。いずれにしても、へらの大型化が進んで口数が減った今、「たった」10枚の差が命取りになることに変わりない。取りこぼしのない丁寧な釣りが求められるのだ。

僕がエサ打ちを始めた時点で伊藤氏は数枚引っ張っていたが、氏が言った通りあまり高釣果は望めなさそう。

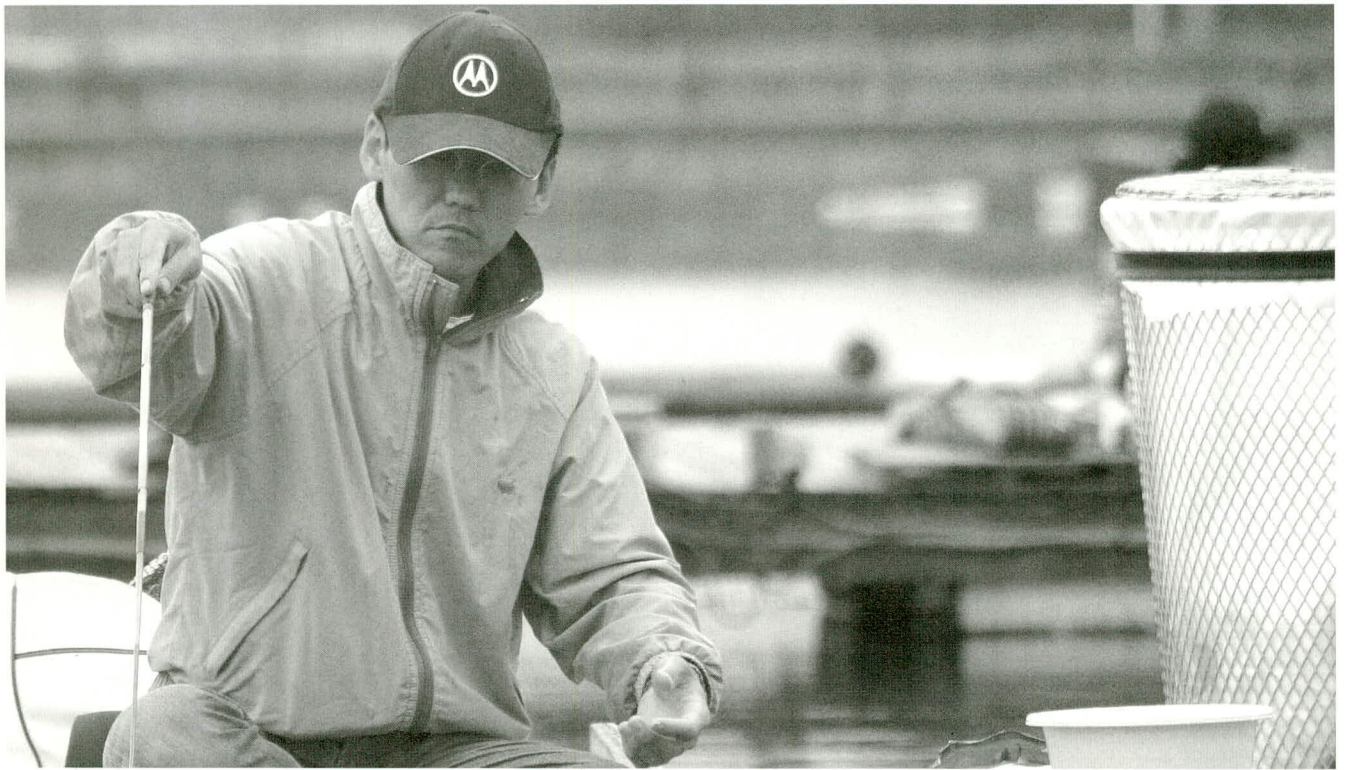
だが、そこは伊藤マジック。上のへらに捕まっただけなら出せない僕のウキとは対照的に、いい雰囲気を出している氏のウキ。ウキが立ち、ボディの付け根でやや止めた後、フワフワと揉まれながらも確実にナジんでいく。水面に見えるへらをエサの抜けでかわし、肝心の小さなエサの芯はキチンと目的のタナ付近へ届いているというサインだ。状態が良ければフワフワと揉まれながらそのままアタつてしまおうし、遅くともナジみ切った直後はアタつてしまっただろう。

しかし、残念ながら当日はそのアタリが少なかったのだ。すなわち「タナにへらが溜まってこない」という状況であり、なおかつ途中のへらのやる気もイマイチということになる。

僕はなかなかナジませられないまま時間を費やしてしまっていたため、水面に集めてしまったへらの量が伊藤氏より圧倒的に多かった。伊藤氏のセッティングの中では、小バリエが重要な要素のひとつである。安易にサイズアップは出来なかったため、エサの修正にもそれなりの時間がかかった。

現在は完全にトーナメントから遠のいている江成だが、竿を握れば往年のオーラをピンピン発する。

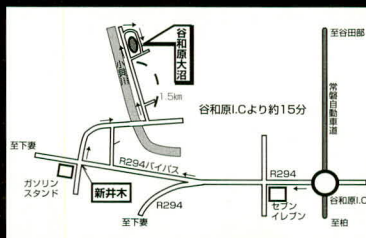
釣りの方での復活はまだまだ先みたい(!?)だが、「ベン」の方では一足お先に復活の兆し。今月号は、久々にクドさ満載江成節全開である!



大小、様々なへらがぎっしり! カツケから底釣りまで、思う存分腕を磨いてください!!

アたる! 釣れる!

谷和原大沼

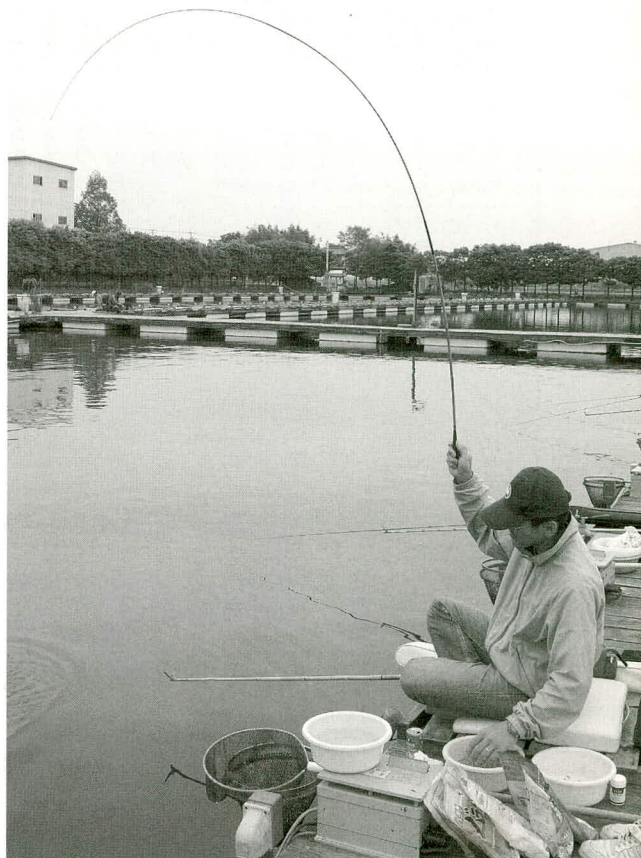


●入場料 1日2000円 半日1500円
女性・中学生以下 1500円

●営業時間
4~9月 平日 6:00~16:30
土日祝日 5:30~16:00
10~3月 平日 6:30~16:00
土日祝日 6:30~15:30

●規定 竿7~18尺 タナ・エサ自由
(生きエサ・一本バリ禁止)

〒300-2400 茨城県筑波郡谷和原村根新田228
☎0297-52-2763



2年前の取材時、僕は伊藤氏のウキの動きを「綺麗」と感じていた。そしてそれは今回も何も変わっていないように感じたが、その動きを演出する難しさも改めて痛感した。

「エサ合わせ」という言葉があるが、氏の釣りにはまさにピッタリくる。もちろんセッティングを軽視するという意味ではなく、普通なら行き過ぎてしまうような、かなり狭い接点をコントロール出来るという意味でだ。氏の釣りのメカニズムをひと通り理解できたとしても、ちょっとやさそつとじゃ真似出来ない。悔しいので釣行回数のせいにはしたくないが、今の僕のペースでは、伊藤氏の「エサ動」をモノにすることは絶対に不可能だろう。ようやくベースエサも決まってきた僕だが、悲しいことに運か以前に触っていたエサのタッチを指先が忘れてくれないからだ。例えば今回の取材では、伊藤氏のウキの動きを見、僕より一段さっぱりしたエサを打っていることは想像出来たし、実際エサを触らせてもらってその通りだったのだが、僕は手直しをする気になれなかったのだ。

(これ以上エサをアマくしたら持たなくなっちゃうよ...)

使用竿が8尺と短いため、アマさで振り込みを躊躇するような心配はなかったし、やってみればおそらく持つはずだったが、僕の指先が手直しを拒絶したのだ。このズレはかなり根が深い...

伊藤氏の釣りは僕にとって勉強にはなっても、真の習得は不可能という結論が出たところで、昔の自分の釣り(短バリス)を試してみることにした。後ろ向きな姿勢と捉えられてしまうかもしれない。しかし天笠氏との対談以降、実は平日例会への参加を考えている僕は真剣だった。このまま何の目標もない状態では本当にヤバイという危機感もあるが、やっぱりもっと釣りに行きたいという気持ちがある。平日なら子供の休みとバツティングしないし、僕も赤日よりは休みをとりやすいと良い事づくめ。ただ問題は、まだ女房には言い出せないでいるということ...。セッティング変更直後、まだうっすらと水面に湧いていたへらも、さすがに5センチの

ハリスは追えないらしく、締まったエサへの持ち過ぎのピンポンもないままウキは沈没していった。だが、やはり平日。「上にしかない」とはいえ無理だなにもへらの補給はあるようで、何とか釣りになりそうだった。

伊藤氏の想像を超えたセッティングでいくらかは釣れ始めた僕を見て、氏は僕にこう聞いてきた。

「江成君、落とし込みなの？」

おそらく、氏はかなり気持ち悪かったに違いない。短いハリスの効果として一般によく言われているものに、「振り切り」と組み合わせることによる「落下中でもテンションが保持され、アタリをとりやすい」というのがあるからだ。もちろん長いハリスであっても振り切れれば張りやすいことには変わりはないが、厚いへらの寄りの中では、ハリスがもみくちゃにされている可能性がある。ハリスをできるだけ短くすることで、その可能性を少しでも低くできるということなのだ。

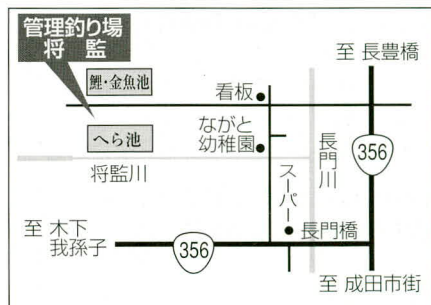
しかし岡田君や僕たち等々力出身の「短バリス」は、基本的に振り切りはしない。時代が変わっても、「タナの凝縮」が発発点だ。また、「落ち込み取り」をメインに据えた場合でも、やはり基本は落とし込みである。なぜならテンションをかけた続けることを意識しなくとも、「こんだけ短きゃ、食った瞬間にハリスは張る筈」と考えているからである。さらに言えば、振り切りで持つようなエサは打たない。後述するが、短バリスの釣りは締まったエサになるケースが多いため、振り切りでも持つようなエサにしてしまうと、さすがにカラッパが心配になるし、実際にカラが目立つ気がするのだ。

短いハリスの効果としてもうひとつよく言われるのは、「アマイエサが打てる」というものだろう。ハリスの長さ以外は全く同じセッティングの2つの仕掛けを用意し、同じエサを同じ庄・大きさを付け、同じように振り込

〒270-1523 印旛郡栄町脇川96
☎0476・95・0409

管理釣り場 **将監** (しょうげん)

- 営業時間 4~9月 日の出~17時
10~3月 日の出~15時
- 料金 平日 1,500円 半日(11時~) 1,000円
土・日・祭日 2,000円 半日 1,500円
女性・子供 1,000円
- 規定 竿8尺以上
- 鯉、金魚釣り開設!
営業時間 9~16時(平日、日曜共通)
2時間1,000円(貸し竿、エサ一式込み)



釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

柴舟(東京都江戸川区)
03-3613-2727
佐伯釣具店(神奈川県川崎市)
044-911-3722
SANSUI川づり館(東京都渋谷区)
03-3499-5025
フィッシング中原(神奈川県川崎市)
044-711-8266
鮎仙人(神奈川県川崎市)
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail: info@office27.com

んだ場合、長いハリスの方がストロークは長く、そのぶんナジみ切るまでのバラケ量も大きいと考えられている。長いまま釣り続けたいならエサをシメる必要があるケースでも、ハリスを詰めればエサをいじる必要がないということになる。このことから「アマイエサが打てる」という認識に至ったと考えられるが、間違いないもの、水中はそう単純でもない。ハリスを詰めた結果、へらが追えなくなるケースも考えなければならぬし、へらの量が多い状況では、逆にエサが持たなくなるケースもあるからだ。以前に僕が紹介した伊藤氏の釣りを思い出して欲しいが、ハリスをうんと延ばすことでエサをいたわられるという考え方がある。極端に短いと、上下のハリスは互いに干渉しやすい。さらに、オモリもごく近いところにある。三つ巴の引っ張り合いは通常のセッティングより激しいため、極端にオモリを背負うウキをチョイスした時と同じように、エサのハリ抜けには常に注意が必要なのだ。僕の記憶では、激しいイレパクになればなるほど、「速攻で食わせるには硬過ぎるんじゃないか」と心配になるくらいしつかりしたエサが多かった。今ではすっかり一般化した短ハリスだが、デメリットを理解しないまま使っている人も多いような気がする。

る。メーター規定の池において、「アマめのエサ」で、なおかつ「振り切って」いる釣り人は、僕の感覚ではかなりグレイである。帰り道、ボンヤリと原稿のネタを考えたり眠りそうになったりしながらハンドルを握っていた僕は、あることに気付いた。それは、スタイルは全く正反対だが、実は伊藤氏の釣りとは僕達の短ハリスの釣りは「食った瞬間にハリスは張る」という点で共通しているということだ。長いハリスとフリースタイルで、テンションを可能な限り排除する伊藤氏。短いハリスで追えるへらを減らすものの、コンバクトながらもハリスの倒れ込みのノーテンションを狙う僕達。フワフワとソフトなサワリを見せる伊藤氏のウキに対し、ゴツゴツとオモリごと持ち上げられるようなダイレクटनाサワリ?を見せる僕達のウキは、全く違う釣りに見える。が、水中で展開されているドラマは全く同じである。ではなぜ今まで気付かなかったのかと言えば、それは僕達の釣りのスタイルに対する第三者からの評価によって、自分達の短ハリスの二面性を見失っていたためだと思うのだ。

おそろく伊藤氏もそういう印象だった筈だ。そして実際にそういう釣りも多かった。だが、当時から落ち込みを意識した短ハリスもあつたのだ。ただ残念なのは、それは「ダンゴの場合」の話であつて、僕達がかつても注目された「セツト」には応用出来なかつたことだ。あの岡田君でさえ、自力では気付けなかつた。今だから分かる、気付けなかつた2つの理由を書いておこう。

まず第1点目。ダンゴからセツトに変更すれば、アタリ数が増える(ダンゴでやっていて、へらつ気があつたのなら)ケースは多い。「へらはタナに溜まっていたのだ」と判断すれば、ハリスを延ばしたり一段とゆっくり落したりして追わせる必要性は感じられなかつたのだ。今となっては、実際に「上のタナから」追わせる必要はなかつた。「動いている(自然落下)かどうか」だったのである。

第2点目は、「ぶら下げた場合の短ハリスの意外な効果」である。中小ベラが大量にいた時代は、安全地帯を知るへら達でも、寄りが多ければ層に厚みがあつた。本当はもっと上層へ行きたかつたとしても、トコロテン式に下へ押し出されるへらもいた。結果として、ぶら下げてもアタつた。ところがへらが大型化し、1人当たりの寄せられるへらの量が減

つてくると、「目的のタナが空洞化」という状況が目立ちはじめた。一般的なセッティングでやっていた人達は「ぶら下げていても(待っていて)アタリなんか出ない」と、すぐに気付けた。しかし僕達はそれに気付くのに遅れた。僕達の短ハリスでは、待っていてもいくらかはアタつたからである。なぜか?短ハリスはナジみ切つても、1メートルギリギリにエサを置いておける。安全地帯に近かつたのだ。

〔以下、次号に続く!〕

前振りで記したとおり、送られてきた原稿が長すぎて、今月はここまで! 「脳内セツト」の本题は、次号にて展開される。里の手元にはすでに原稿があるわけだが、これがもう、ゲップが出そうなほどのクドさ! …いや、江成節全開の濃厚さである。

椎の木湖での両ダンゴを通して、江成がいったいどんな「脳内変換」を行ったのか?。

次号、(もしよろしかったら…)絶対に見逃さないように!

by 里ちん

へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

7

〒175-0071 東京都小平市 日野町1-10-10 (株) 日野出版 第475号 発行日 2005年7月1日 印刷日 2005年6月25日 発行部数 3万部

杉山達也、
超満員の筑波湖で
113枚、63.8kg。



特集Ⅰ 石井旭舟「へらぶな浪漫街道」スペシャル
壮絶なる田瀬湖再挑戦。

特集Ⅱ 最先端の「ハリ」選び。



ついでにエサづくり一筋
丸マルキュー

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
平成17年7月1日発行

いざいざ、 ペレットの最盛期へ。

名手・戸張誠は語る。

「もはやペレットに、ブレンドの制約はない」と。

ペレットを使う目的が、以前とは変わってきているのだ。

よりたくさんのへら鮒を寄せ、

より大型を、より明確なアタリで釣るために。

戸張はペレットを、スイミー系とも、さなぎ系とも、積極的に合わせていく。

そんな戸張の懐刀は、マルキューの「ペレ道」と「ペレ底」。

使いやすくて頼りになる、今シーズンも注目のペレットエサだ。



**爆発力と柔軟性が魅力の、
宙釣り用ペレットエサ。**

ペレットと麩が最初から混ざり合っている、つくりやすく使いやすいダンゴエサ。ペレット独自の集魚力と、エサのまとまり感、重さはそのままに、ネバリの出にくいペレットとバラケ性のある新麩の効果で、経時変化を抑えました。だから、へら鮒が食いやすい状態で、しっかりとハリに残ります。短竿の釣り、ペレットの宙釣り、チョーチン釣りに対応。セットのバラケにも使えます。

●ペレ道 (ペレどう) 600g (スライダージャック袋)



**寄せる力に溢れた、
底釣り用ペレットエサ。**

ペレットと麩、グルテンが、最初から混ざり合っている、つくりやすく使いやすい底釣り用のダンゴエサ。集魚力に優れた特別なペレットが、底のピンポイントにへら鮒を寄せ、食わせませす。ペレット独自の重さでウワズリを抑え、明確なアタリがコンスタントに続くようにサポート。釣り堀、管理釣り場、野釣り場と、あらゆる釣り場で使える底釣りエサです。

●ペレ底 (ペレぞこ) 330g

丸マルキュー株式会社

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-624-0909
四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
Eメール・ホームページ
<http://www.marukyu.com/i>

雑誌 07907-07



4910079070759
00952

定価 1,000円 本体九五二円